

表1 クラミジアの分類と感染症

目 order	科 family	属	種	宿主域	感染症および概要
Chlamydiales	Chlamydiaceae	<i>Chlamydia</i>	<i>trachomatis</i>	ヒト	trachoma (14 の血清型) および lymphogranuloma venereum (4 の血清型) 生物型からなる。STD および眼疾患, 肺炎の原因菌。
			<i>suis</i>	ブタ	ブタの結膜炎, 流産などの原因菌として疑われている。不顕性感染が主体。
			<i>muridarum</i>	マウスおよびハムスター	MoPn (マウス) および SFPD (ハムスター) の2株のみが知られる。げっ歯類に肺炎を引き起こす。クラミジア感染症のモデルとして用いられている。
		<i>Chlamydophila</i>	<i>psittaci</i>	鳥類, 哺乳類, ヒト	ほとんどすべての鳥類に感染し, 不顕性感染。幼鳥やときとして成鳥に致死性の全身感染。血清型がある。ヒトは偶発宿主。ヒトの <i>C. psittaci</i> 感染症は古くからオウム病として知られる。
			<i>abortus</i>	鳥類および哺乳動物, ヒト	ヒツジ, ウシおよびヤギならびにウマ, ウサギ, モルモット, マウスおよびブタに流産を引き起こす。ヒトに感染し, 流産を引き起こしたという報告がある。
			<i>felis</i>	ネコ, ヒト	ネコに結膜炎および上部気道炎を引き起こす。感染ネコの全身の臓器から分離される。血清型はない。ヒトへの感染例が 20 例以上報告されている。
			<i>caviae</i>	モルモット, ヒト	封入体結膜炎の起因菌。最近, ヒトの泌尿器から分離され, 新しい STD および人獣共通感染症の可能性が示された。
			<i>pneumoniae</i>	ヒト, コアラ, モルモット	ヒトに呼吸器疾患および循環器疾患を引き起こす。コアラには眼疾患および泌尿生殖器疾患を引き起こす。ウマからの分離株は 1 株で呼吸器から分離された。
			<i>pecorum</i>	哺乳類およびコアラ	多様な病原性を示す。反芻動物では不顕性感染が一般的。コアラでは <i>C. pneumoniae</i> と同様に眼疾患および泌尿生殖器疾患を引き起こす。

(次ページに続く)

(前ページより)

目 order	科 family	属	種	宿主域	感染症および概要
	Waddliaceae	<i>Waddlia</i>	<i>chondrophila</i>	ウシ (?), ヒト	ウシの流産胎仔から未知のリケッチアとして 1986 年に分離. 未熟児肺炎の原因菌の 1 つである可能性が示されている.
	Parachlamydiaceae	<i>Parachlamydia</i>	<i>acanthamoebae</i>	原生動物 (アメーバ), ヒト	Acanthamoeba や Hartmannella に感染. 環境中の水から検出される. 未熟児肺炎の原因菌の 1 つである可能性が示されている.
		<i>Neochlamydia</i>	<i>hartmannellae</i>		
	Simkaniaceae	<i>Simkania</i>	<i>negevensis</i>	不明, (ヒト)	培養細胞への混入微生物として分離. 血清疫学的にはヒトの肺炎との関連性が言われている.

ネコ結膜炎 (*C. felis* 感染症) および *C. abortus* 感染症および *C. caviae* 感染症が含まれる (表 1)。オウム病はオウム病クラミジア *C. psittaci* を病原体とし、オウムなどの愛玩用の鳥からヒトに感染し、肺炎などの呼吸器感染症を引き起こす疾患である¹⁰⁾。ネコ結膜炎は *C. felis* を病原体とするネコの結膜炎および上部呼吸器感染症であるが、まれにヒトに感染し、結膜炎を引き起こすことが知られている¹¹⁾。*C. abortus* 感染症はヒツジ流産の原因菌である *C. abortus* による感染症であるが、以前に羊牧場において妊婦に伝播し、流産を引き起こしたという報告がある¹²⁾。最近、性行為感染症の患者から *C. trachomatis* との重複感染例が報告された¹³⁾。*C. caviae* 感染症は、モルモット封入体結膜炎の原因菌である *C. caviae* による感染症である。最近我が国において、泌尿器感染症に付随して *C. caviae* が分離された¹⁴⁾。臨床的意義については未解決であるが、新たな人獣共通感染症の可能性がある。ここでは代表的な人獣共通クラミジア感染症であるオウム病について述べる。

1. 病原体

クラミジア感染症の原因菌は、クラミジア属の偏性細胞内寄生性原核生物である。無生物培地では増殖せず、生細胞でのみ増殖可能である。細胞における増殖において、形態学的変化を伴う増殖環を有する (図 4)。クラミジアゲノムは 1,000~1,200kbp である¹⁵⁾。2009 年には形質転換が可能であることが報告された¹⁶⁾。

2. 疫学

C. psittaci の宿主域は主として鳥類である。オウム病の感染源としてはオウムインコ類およびハトが重要である。クラミジア感染鳥のほとんどは不顕性感染であり、間欠的に排菌

する。感染鳥が排泄する糞便には、クラミジアの感染性粒子である基本小体が多数含まれる。基本小体は乾燥に強く、環境中で感染性を保っている。鳥における保有状況に関する 2005 年から 2009 年の調査では、健康診断依頼 2,339 検体中 45 例 (1.9%) からクラミジアが検出された (Okuda ら, 準備中)。

ヒトのオウム病の発生状況について見ると、1999 年から 2009 年において年間平均 31 例が届け出られている。月別の発生数を見ると 5 月から 6 月が多い。動物の展示施設で罹患したと考えられるオウム病の症例としては、1996 年に姫路のサファリパークを訪問したことによるオウム病の単発例が報告されている¹⁷⁾。2001 年の 11 月から 12 月に発生した事例は、患者数 17 人と報告例としては最大規模の集団発生であった¹⁸⁾。2005 年 12 月には、神戸の鳥展示施設で新規開設直前に小規模な集団発生があった¹⁹⁾。

3. 感染源および感染経路

ほとんどの症例が鳥類を感染源としている。感染源はオカメインコ、セキセイインコなどである。ヒトからヒトへの伝播は極めて少ない。家族発生の場合でも、同一の感染源からの感染による。感染源となった鳥も発症している場合が多い。感染鳥からの伝播は気道感染である。感染鳥は排泄物に多量の病原体を排出する。排泄物が乾燥すると塵埃となり、この病原体を大量に含む塵埃の吸入により感染すると考えられている。

4. オウム病の臨床

ヒトのオウム病において、急性型と徐々に発症する例がある。臨床症状も、軽度のインフルエンザ様症状から多臓器障害を伴う劇症型まで多彩である (岸本, 2007)。7~14 日の潜伏期の後に悪寒を伴う高熱で突然発症し、1~2 週間持続する。頭痛、羞明、上部ない

図4 クラミジアの増殖環

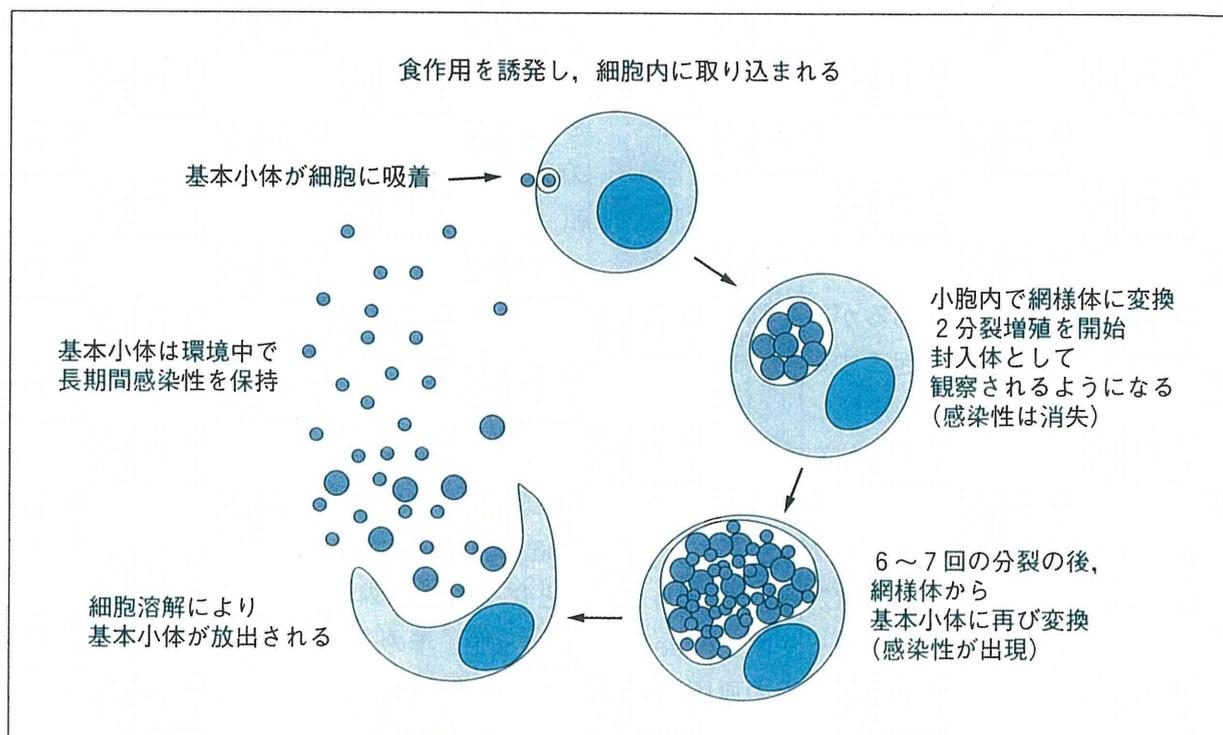


表2 オウム病における胸部X線所見の特徴

陰影	所見
性状	半透明すりガラス様陰影が最も多く (70%), その中に微細な汎天井陰影または網状陰影が混在する像が見られる。
形状	肺門部から肺野末梢部へくさび状または扇形に広がる傾向が多く, 次いで限局性の陰影を呈するものがしばしば見られる。
局在部位	下肺野が最も多く見られるが (約60%), 中肺野, 上肺野にもかなり見られる。
その他	陰影が移動することがある。 肺野の陰影は肺門部に繋がり, 肺門部リンパ節腫脹を思わせる所見も見られる。 陰影の吸収が比較的遅い。

し下部呼吸器疾患および筋肉痛などのインフルエンザ様症状を主徴とする。悪心、嘔吐を伴う場合もある。未治療の場合、発熱は2ヵ月以上にわたって継続することもあるが、通

常2週目より徐々に解熱する。

オウム病に特徴的な検査所見はない。胸部X線所見はさまざまであるが、岸本ら²⁰⁾はオウム病の胸部X線所見の特徴を幾つか挙げている (表2)。また、今後はCTを用いた新たな解析で詳細に解析されることが望ましいとしている。

5. 病原学のおよび血清学的診断

分離材料の採取は化学療法開始前に行う。患者の喀痰、咽頭拭い液、肺胞洗浄液、血液、死亡例では肺などの臓器を用いる。オウム病の抗原検出キットとして市販されているのは直接蛍光抗体法用抗体で、標的抗原は科特異的リポ多糖体である。FITC 標識モノクローナル抗体溶液である。各種分泌液や病変部の塗抹標本におけるクラミジア基本小体を検出する。遺伝子診断は喀痰・咽頭スワブなどの呼吸器材料からDNAを抽出し、PCR法によって行う。

6. オウム病の治療

明らかに鳥との接触歴がある場合にはオウム病を第1に考え、できるだけ早く治療を開始する。第1選択薬はミノマイシンをはじめとするテトラサイクリン系薬である。次いでエリスロマイシンなどのマクロライド系、さらにニューキノロン系薬が選択される。妊婦や小児ではマクロライド系を第1選択薬とする。βラクタム系薬は無効ないし使ってはいけない。アミノ配糖体系薬も効果はない。

7. クラミジア感染症のまとめ

オウム病は有効な抗生物質があり、的確な診断・治療により対応できる。しかしながら診断が遅れたり、誤診をすると死に至る場合もある。中等度から重度の肺炎患者については、鳥類との接触歴をはじめ、感染状況の把握が重要である。オウム病が発生した場合、医師および獣医師の協力による対応が大切である。

文 献

- 1) Angelakis E, et al: Q fever. *Vet Microbiol* 140: 297-309, 2010.
- 2) Omsland A, et al: Host cell-free growth of the Q fever bacterium *Coxiella burnetii*. *Proc Natl Acad Sci U S A* 106 (11): 4430-4434, 2009.
- 3) Omsland A, et al: Isolation from animal tissue and genetic transformation of *Coxiella burnetii* are facilitated by an improved axenic growth medium. *Appl Environ Microbiol* 77 (11): 3720-3725, 2011.
- 4) Arricau-Bouvery N, et al: Is Q fever an emerging or re-emerging zoonosis? *Vet Res* 36: 327-349, 2005.
- 5) Delsing CE, et al: Q fever in the Netherlands from 2007 to 2010. *Neth J Med* 68 (12): 382-387, 2010.
- 6) Watanabe A, et al: Diagnosis and treatment of Q fever: attempts to clarify current problems in Japan. *J Infect Chemother* 14: 1-7, 2008.
- 7) Raoult D, et al: Natural history and pathophysiology of Q fever. *Lancet Infect Dis* 5: 219-226, 2005.
- 8) Porter SR, et al: Q fever in Japan: An update review. *Vet Microbiol* 149: 298-306, 2011.
- 9) Milazzo A, et al: Sexually transmitted Q fever. *Clin Infect Dis* 33: 399-402, 2001.
- 10) 福士秀人: オウム病. 改訂版 人獣共通感染症 (木村 哲, 他 編), p343-356. 医薬ジャーナル社, 大阪, 2011.
- 11) 福士秀人: 封入体結膜炎 (ネコクラミジア性結膜炎). 改訂版 人獣共通感染症 (木村 哲, 他 編), p357-361. 医薬ジャーナル社, 大阪, 2011.
- 12) Papp JR, et al: *Chlamydia psittaci* infection in sheep: a paradigm for human reproductive tract infection. *J Reprod Immunol* 34 (3): 185-202, 1997.
- 13) Psarrakos P, et al: *Chlamydia trachomatis* ompA genotypes in male patients with urethritis in Greece: conservation of the serovar distribution and evidence for mixed infections with *Chlamydomydia abortus*. *Mol Cell Probes* 25: 168-173, 2011.
- 14) Muraio W, et al: Epidemiology of *Chlamydomydia caviae*-like *Chlamydia* isolated from urethra and uterine cervix. *Acta Med Okayama* 64 (1): 1-9, 2010.
- 15) Grinblat-Huse V, et al: Genome sequences of the zoonotic pathogens *Chlamydomydia psittaci* 6BC and Cal10. *J Bacteriol* 193 (15): 4039-4040, 2011.
- 16) Binet R, et al: Transformation and isolation of allelic exchange mutants of *Chlamydomydia psittaci* using recombinant DNA introduced by electroporation. *Proc Natl Acad Sci U S A* 106 (1): 292-297, 2009.
- 17) 岸本伸人, 他: サファリパークから感染したと考えられたオウム病の1例. *香川内科医会誌* 32: 93-96, 1996.
- 18) Matsui T, et al: An outbreak of psittacosis in a bird park in Japan. *Epidemiol Infect* 136: 492-495, 2007.
- 19) 飯島義雄, 他: 鳥展示施設におけるオウム病集団発生例. *感染症誌* 83: 500-505, 2009.
- 20) 岸本寿男, 他: オウム病. *呼吸* 22: 38-44, 2003.

Coxiella and Chlamydia Infections

Hideto Fukushi

Department of Veterinary Microbiology, Faculty of Applied Biological Sciences,
Gifu University

Detection of *Chlamydophila psittaci* by Using SYBR Green Real-Time PCR

Hideko OKUDA¹⁾, Kenji OHYA^{1,2)}, Yukihiro SHIOTA¹⁾, Hiroshi KATO¹⁾ and Hideto FUKUSHI^{1,2)*}

¹⁾Department of Applied Veterinary Sciences, United Graduate School of Veterinary Sciences, Gifu University, Gifu 501-1193 and

²⁾Laboratory of Veterinary Microbiology, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University, Gifu 501-1193, Japan

(Received 25 May 2010/Accepted 24 September 2010/Published online in J-STAGE 8 October 2010)

ABSTRACT. *Chlamydophila psittaci* is the causative agent of human psittacosis and avian chlamydiosis. This zoonotic pathogen is frequently transmitted from infected birds to humans. Therefore proper and rapid detection of *C. psittaci* in birds is important to control this disease. We developed a method for detecting *C. psittaci* by using SYBR Green Real-time PCR based on targeting the cysteine-rich protein gene (*envB*) of *C. psittaci*. This one step procedure was highly sensitive and rapid for detection and quantification of *C. psittaci* from fecal samples. This assay was also able to detect other zoonotic *Chlamydophila* species such as *C. abortus* and *C. felis*. The assay is well suited for use as a routine detection method in veterinary medicine.

KEY WORDS: avian chlamydiosis, *Chlamydophila psittaci*, real-time PCR, SYBR Green dye.

J. Vet. Med. Sci. 73(2): 249–254, 2011

Bacteria of the family Chlamydiaceae are obligate intracellular bacterial pathogens that cause various diseases in a wide range of animals including human. Among them, *Chlamydophila psittaci*, the causative agent of psittacosis in human and avian chlamydiosis, is the most important zoonotic pathogen, which is frequently transmitted by aerosols from infected birds. *C. psittaci* has been isolated from more than 460 avian species of 30 orders [15]. Parrot, parakeet and feral pigeon are the best known as representative natural hosts. Recently, we reported that 6.0% of pet birds (11 avian orders) in Japan were positive for *C. psittaci* [3]. Wild birds, especially pigeon, can serve as a source of human psittacosis [18, 27]. Avian chlamydiosis can exist as an inapparent infection. Hence birds can be carriers to human.

The clinical signs of psittacosis in human are influenza-like symptoms. Without appropriate treatment, this infection occasionally leads to severe respiratory disease and fatal systemic disease [28]. Therefore, proper and rapid detection of *C. psittaci* in human and birds is important to control psittacosis and avian chlamydiosis. Psittacosis is a notifiable infectious disease in Australia, the U.S., a number of European countries [13], and Japan. In Japan, since 1999, all physicians have been obliged to report psittacosis cases because it is classified as category IV under the Infectious Diseases Control Law, Japan. Hence, psittacosis should be differentiated from chlamydial pneumonia caused by *C. pneumoniae* (listed under the category V notifiable infectious diseases in Japan).

C. psittaci infection can be diagnosed by isolation of the pathogen, serological detection, or DNA detection [25]. Due to the contagiousness of this pathogen, direct isolation of the pathogen or serological test by using the purified elementary body (EB) or the *C. psittaci*-infected cells as anti-

gens are hazardous and require specialized laboratory expertise and facilities. Therefore, microbiological diagnosis of psittacosis and avian chlamydiosis can be performed only in well-equipped laboratories. Various DNA amplification methods have been developed to detect *C. psittaci* such as conventional PCR and real-time PCR [25]. The real-time PCR assay is useful as a diagnostic test for *C. psittaci*, and has simultaneously enabled the identification and/or quantification of *Chlamydia* spp. and *Chlamydophila* spp. In addition, unlike conventional PCR, this assay can detect the pathogen in just one step, making post-PCR procedures such as electrophoresis unnecessary. That means it can be diagnosed rapidly and reduces the risk of carryover contamination.

Several studies have used real-time PCR to detect *C. psittaci*. The target genes in these studies are the major outer membrane protein (MOMP) gene (*ompA*) [10, 14, 22], 23S rRNA gene [1, 5, 7] and inclusion membrane protein A gene (*incA*) [19]. However, almost of these reports aimed at developing *C. psittaci*-specific diagnostic tests.

In this study, we chose a molecular cysteine-rich protein (*envB*) of *C. psittaci* as a target gene. We designed primers that could broadly detect animal-derived *Chlamydophila* including *C. psittaci*, *C. abortus* and *C. felis*, but that did not detect other species of *Chlamydia* or *Chlamydophila*. We also evaluated the potential of our real-time PCR system to be used as a clinical diagnostic system for *C. psittaci* and other related *Chlamydophila* spp. infections.

The chlamydial species and strains used in this study are listed in Table 1. All strains were cultivated in HeLa cells or L cells in suspension form. HeLa cells were pretreated with 30 µg/ml DEAE-dextran in minimal essential medium α (Wako Pure Chemical Ltd., Osaka, Japan) at room temperature for 30 min before inoculation. After inoculation of each chlamydia at a multiplicity of infection of up to 10, the infected cells were incubated in the presence of 5% CO₂ at 37°C for 60 min. The inocula were exchanged into minimal essential medium α supplemented with 5% fetal bovine

* CORRESPONDENCE TO: FUKUSHI, H., Laboratory of Veterinary Microbiology, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University, 1-1 Yanagido, Gifu 501-1193, Japan.
e-mail: hfukushi@gifu-u.ac.jp

Table 1. Chlamydia species and strains used in this study

Species	Strain	Host	Reference
<i>C. psittaci</i>	6BC	parakeet	[11]
	Cal-10	human	[23]
	Daruma	parakeet	[8]
	GCP-1	parrot	[23]
	Mat116	psittacine	this study
	Nose	budgerigar	this study
<i>C. abortus</i>	B577	sheep	[23]
<i>C. felis</i>	Fe/C-56	feline	[21]
<i>C. caviae</i>	GPIC	guinea pig	[20]
<i>C. pecorum</i>	Maeda	cattle	[8]
<i>C. pneumoniae</i>	TW183	human	[12]
<i>C. muridarum</i>	Nigg	mouse	[8]
<i>C. suis</i>	S45	swine	[16]
<i>C. trachomatis</i>	L2/434/Bu	human	[8]
	D/UW-3/CX	human	[2]
	E/UW-5/CX	human	[4]

serum (Invitrogen, Carlsbad, CA, U.S.A.) and 1 µg/ml of cycloheximide in the presence of 5% CO₂ at 37°C until formation of the mature inclusion body. *C. psittaci* elemental body (EB) was purified from infected L cells in suspension form by sucrose gradient centrifugation as described previously [9, 21]. The purified EB was diluted at 2.0 mg/ml protein concentration in 0.01 M Tris-HCl (pH7.2) and stored at -80°C until use.

Bacteria commonly detected in fecal samples from birds were used for testing the specificity of the real-time PCR. The bacterial species were *Proteus* sp., *Pasteurella multocida*, *Pseudomonas aeruginosa*, *Bacillus subtilis*, *Serratia marcescens*, *Staphylococcus aureus*, *Escherichia coli*, *Streptococcus agalactiae*, *Salmonella enterica* biovar Pullorum, and *Yersinia enterocolitica* from the culture stock of our laboratory.

Two sets of oligonucleotide primers were designed based on the *envB* gene sequence of the *C. psittaci* 6BC with accession number M61116 (National Center of Biotechnology Information: NCBI). The entire *envB* region was amplified using a pair of primers (Clone-F: 5'-GTTCATTTGCC AGCGGAAGATAGAGG-3'; and Clone-R: 5'-AGAACCACGGTTGGTTACACAAATACGG-3') for making plasmid DNA to generate a standard curve. Alignment of the *envB* gene of *C. psittaci* 6BC, *C. abortus* B577 (accession#AF111200), *C. felis* Fe/C-56 (accession#AP006861), *C. caviae* GPIC (accession#U41579), *C. pecorum* W73 (accession#U76761), *C. pneumoniae* TW-183 (accession#AE009440), *C. muridarum* Nigg (accession#AE002160) and *C. trachomatis* L2/434/Bu (accession#AM884176), revealed that the region encompassing nucleotide positions 997 to 2,670 of *envB* gene was the most conserved among them (Fig. 1). Accordingly, for the real-time PCR analysis, another set of primers (Env-F: 5'-AACCTCGGATAGCAAATTAATCTGG-3'; and Env-R: 5'-ATTTGGTATAAGAGCGAAGTTCTGG-3') was designed to amplify the region of the *envB* gene (152 bp), which showed high similarity among *C. psittaci* and related

Chlamydophila such as *C. abortus* and *C. felis* but not in other *Chlamydia* and *Chlamydophila* (Fig. 1).

To generate a standard curve for the real-time PCR assay, a PCR product containing 1,358 bp covering the part of *envB* was cloned into a pGEM T easy vector (Promega Corporation, Madison, WI, U.S.A.), resulting in pEnvB. The pEnvB was purified using a commercial kit (illustra plasmidPrep Mini Spin Kit, GE Healthcare UK Ltd., Little Chalfont, Buckinghamshire, U.K.) according to the manufacturer's instructions. The concentration of pEnvB solution was calculated from the absorbance at 260 nm measured with a spectrophotometer (GeneQuant II, Pharmacia Biotech, Piscataway, NJ, U.S.A.). Serial 10-fold dilutions of pEnvB were used in the amplification reactions.

In order to determine the detection limit of the real-time PCR analysis and to verify the accuracy of DNA extraction in field samples, feces of birds containing a known titer of *C. psittaci* EB were used as templates. Emulsion birds feces [20% (w/v) in PBS] were mixed with an equivalent amount of PBS containing 10-fold serial dilutions of EB, resulting in a 10% emulsion bird feces containing known titers of EB [10 to 10⁶ inclusion forming units (IFU)].

DNA was extracted from chlamydia-infected cells, bird feces containing chlamydial EB and bacterial cultures by using a DNA extraction kit (SepaGene; Sankojunyaku Co., Ltd., Tokyo, Japan) according to the manufacturer's instructions. The DNA was dissolved in 20 µl of TE buffer (10 mM Tris-HCl, pH 8.0, and 1 mM EDTA) and stored at -30°C until used.

Real-time PCR was performed with the Thermal Cycler Dice Real Time System TP800 (Takara Bio Inc., Otsu, Japan). The reaction was carried out in 12.5 µl of SYBR Premix EX Taq II (Perfect Real Time: Takara Bio Inc.), 10 µM of each primer, and 2 µl of DNA extract in a final volume of 25 µl. Cycling conditions were as follows: an initial cycle of heating at 95°C for 10 sec, 40 cycles of 95°C for 5 sec and 60°C for 30 sec with data acquired at the annealing and extension. After completion of the PCR reaction, a melting curve was constructed by 95°C for 15 sec, 60°C for 30 sec, then temperature was ramped up from 60 to 95°C. The identity of PCR product was confirmed by DNA sequence analysis.

Conventional nested PCR was examined using the same samples as described previously [3].

The sensitivity and the linearity of the real-time PCR assay were assessed using serially 10-fold diluted pEnvB DNAs containing the primer-spanning region of the *envB* gene as templates in triplicate. As shown in Fig. 2a, the sensitivity of detection was linear from 1 × 10¹ to 1 × 10⁸ copies of pEnvB per reaction by real-time PCR. Negative controls did not provide any amplification. The standard curve covered a linear range of 8 orders of magnitude [regression coefficient (R²) was 0.99], providing an accurate measurement of starting target amount (Fig. 2b). The amplification products were verified by the melting curves analysis after PCR procedures (Fig. 2c), showing that only one melting peak (at 81.75°C) was observed. These results show that a

<i>C. psittaci</i>	1	<u>AACCTCGGATAGCAAATTAATCTGGACAATTGATCGCTTAGGTCAAGGTGAAAAATGCAA</u>	60
<i>C. abortus</i>		-----A-----T-----	
<i>C. felis</i>		-----C-----T-----T--A-----G-----	
<i>C. caviae</i>		T--T--C-----T-----T-----G-----	
<i>C. pecorum</i>		---G-A---G-G---G--G---A--C---T---A---C---G---	
<i>C. pneumoniae</i>		T--AAGT---G-G---G---A---C---C-G---GC---A-T---	
<i>C. muridarum</i>		T--TG-T---G-T--GC--G-T---A-----G---A--G--C---GA-T--	
<i>C. trachomatis</i>		T--TG-T---G-T--GC--G-T---A-----C-----A---C---GA-T--	
<i>C. psittaci</i>	61	AATTACCGTTGGGTAAAACCTCTTAAGAAGTTGTTGCTTCACCGCGCTACTGTATG	120
<i>C. abortus</i>		-----	
<i>C. felis</i>		-----C-----A--T-----	
<i>C. caviae</i>		-----T-----C-----A--T---C-----	
<i>C. pecorum</i>		-----T-----G--AA-A---G--C--C--T--T---A--G--A-----	
<i>C. pneumoniae</i>		-----T--A-----C-----A--T-----	
<i>C. muridarum</i>		-----T--A-----C-----T--A--T--A--G--T--	
<i>C. trachomatis</i>		-----T--A-----C-----T--A--T--A--A-----	
<i>C. psittaci</i>	121	TGCTTGCCAGAACTTCGCTCTTATACCAAAT	152
<i>C. abortus</i>		C-----	
<i>C. felis</i>		-----G-----	
<i>C. caviae</i>		-----	
<i>C. pecorum</i>		---A--T-----A-C---C--C--A---	
<i>C. pneumoniae</i>		-----G--C--T-----T---	
<i>C. muridarum</i>		-----T-----GA-C--T--GGT---G---	
<i>C. trachomatis</i>		C-----T-----GA-C--T--GGT---A---	

Fig. 1. Nucleotide sequence alignment of representative variant strains of *C. psittaci* 6BC, *C. abortus* B577, *C. felis* Fe/C-56, *C. caviae* GPIC, *C. pneumoniae* TW-183, *C. pecorum* W73, *C. trachomatis* L2/434/Bu, *C. muridarum* Nigg. Underscored and bold portions of the sequences are primer-binding locations.

minimum of 10 copies of the pEnvB was consistently detectable in the real-time PCR assay.

Since *C. psittaci* EB are shed in feces from infected birds, fecal samples of birds are routinely used as a source of DNA for laboratory diagnosis of *C. psittaci* infection [24]. We prepared bird feces containing known amount of EB in order to simulate clinical samples, adding with EB suspensions in PBS as a control. DNAs were extracted from the feces and PBS containing *C. psittaci* EB. The real-time PCR indicated that the cycle threshold (Ct) values of these samples were correlated with the amount of EB in both feces and PBS (data not shown).

The sensitivity of the real-time PCR was compared with that of the nested PCR routinely used in our laboratory for clinical diagnosis [3]. Template DNA samples extracted from feces and PBS containing known titers of EB as described above were analyzed by nested PCR. The detection limit of the nested PCR assay was 10^4 IFU per reaction (data not shown). In an experiment using same samples, the

lower detection limit of the SYBR Green real-time PCR was only 10 IFU (data not shown).

The specificity of the real-time PCR assay was evaluated with 7 strains of *C. psittaci*, 10 strains of *Chlamydophila* and *Chlamydia* species, and bacterial culture. As a result, *C. psittaci* strains including 6BC, Borg, Cal-10, Daruma, GCP-1, Mat116, Nose, and closely related other *Chlamydophila* species such as *C. felis* and *C. abortus* were amplified by real-time PCR. All of these reactions showed a single melting peak at $81.75 \pm 0.5^\circ\text{C}$ (data not shown). No signal was detected from *C. pneumoniae* and *C. trachomatis* (Table 1), and also from none of bacterial culture that we examined.

In this study, we established a real-time PCR assay based on SYBR Green dye for the detection of *C. psittaci* and related *Chlamydophila* species. This assay is an effective alternative for the conventional nested PCR.

Although there are many assays for detecting *C. psittaci* [25], a simple and efficient analysis is still required by veterinarians and clinicians. Recently, real-time PCR assay has

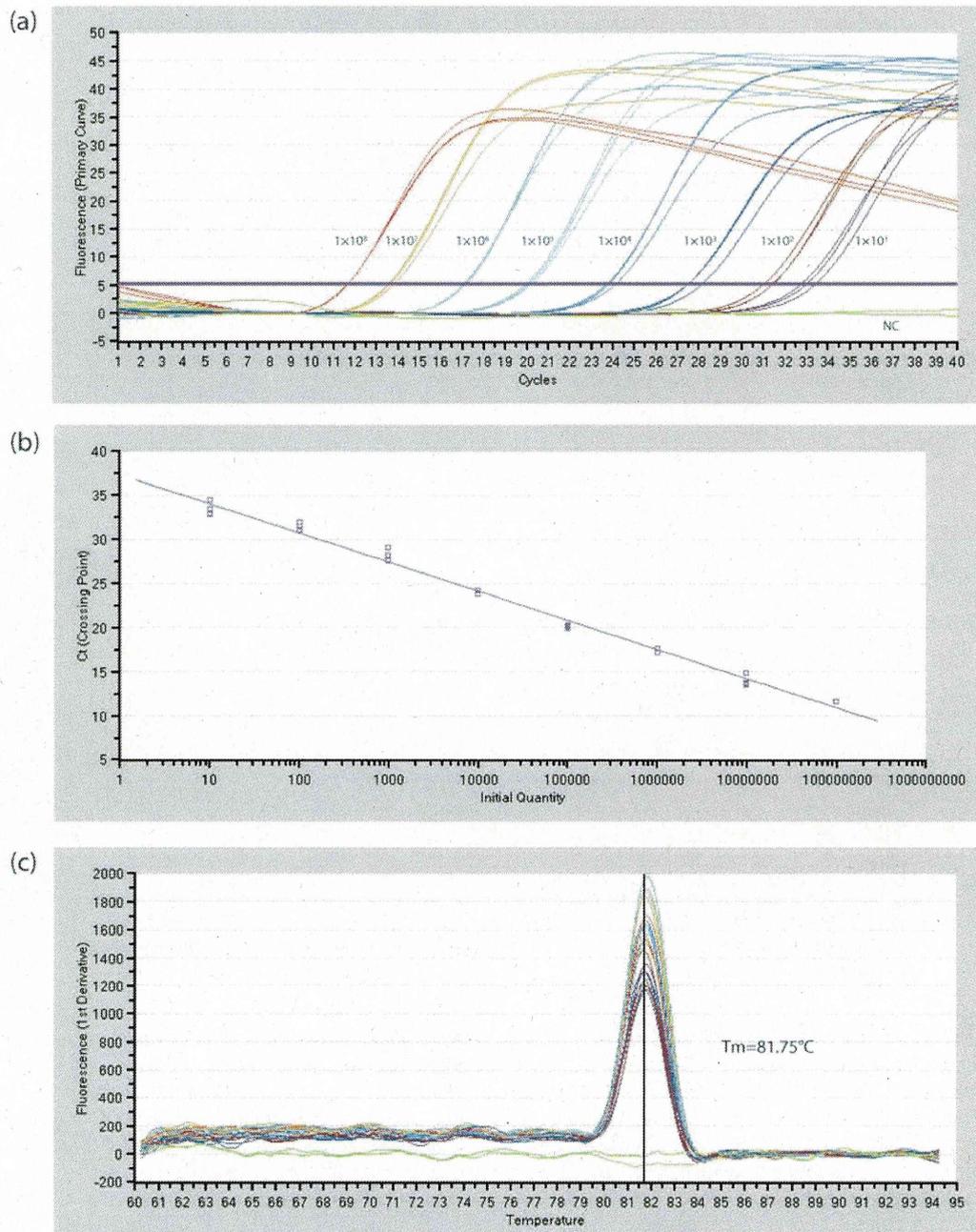


Fig. 2. Amplification curves, standard curves and melting curves of the real-time PCR assay. (a) Amplification curves were generated by fluorescence data collected at each cycle during the extension phase of the PCR. Values are triplicates of different dilutions of the pEnvB used as standard. pEnvB copy number per sample were 1×10^1 , 1×10^2 , 1×10^3 , 1×10^4 , 1×10^5 , 1×10^6 , 1×10^7 , 1×10^8 and negative control (NC). (b) Standard curves based on serial dilutions of plasmid DNA (copy numbers are 1×10^1 to 1×10^8). The R^2 linearity value from linear regression is 0.99. (c) Melting curve analysis from the same experiment as in (a).

become more widely used as a major diagnostic test. Conventional PCR analysis including nested PCR [3] and PCR-restriction fragment length polymorphism (RFLP) [17, 26]

confirm only the presence of a pathogen and take a long time for detection, because they require gel electrophoresis to confirm the presence of PCR products after PCR [25]. On

the other hand, present real-time PCR techniques can quantify and detect a pathogen more rapidly than conventional PCR. The real-time PCR method described here took only about half the time of conventional nested PCR.

Our assay uses primers that target a conserved region of the *envB* gene in *Chlamydophila* spp. This *envB* region is suitable for differential diagnosis, that is, this method can distinguish from *C. psittaci* to *C. pneumoniae* or *C. trachomatis*. This primer pair amplifies closely related species such as *C. abortus* and *C. felis*. Pantchev *et al.* reported that *C. psittaci* and *C. abortus* have possibility to cause dual infections in pigs and cattle [22], and we speculate that it could also cause dual infection in avian species. Therefore, the real-time PCR established in this study which can simultaneously detect *C. psittaci* and *C. abortus*, may be a useful tool in veterinary medicine.

Fecal samples of birds are routinely used as a source of DNA for laboratory diagnosis of *C. psittaci* infection [24]. Fecal samples contain the number of different types of inhibitors of PCR [26]. These impurities might have influenced the amplification. However, it was confirmed that fecal impurities did not affect the results in this detection method. One of a general problem of PCR assay is that inhibitory substances can give a false-negative result. An internal control system may be needed to improve the accuracy of our real-time PCR [14].

Conventional nested PCR was able to detect 10^4 IFU, whereas the lower detection limit of the SYBR Green real-time PCR was only 10 IFU. Therefore, the SYBR Green PCR assay is 1,000 times more sensitive than conventional nested PCR. The short amplicons in the real-time PCR assays used in this study likely resulted in more efficient amplification and higher sensitivity. Our SYBR Green real-time PCR assay also achieved the same sensitivity as other TaqMan PCR assays compared with IFU based on Ct value [19, 22]. Ehrlich *et al.* pointed out that the actual detection sensitivity depends on the integrity of the target DNA [6, 25]. The real-time PCR established in this study is applicable even to DNA samples that were extracted from avian feces.

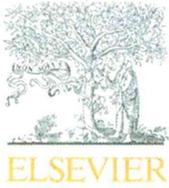
In conclusion, the real-time PCR assay based on SYBR Green dye defined high sensitivity and rapidity and quantification for detection of *C. psittaci* from fecal samples. Early diagnostics and treatment are of importance in psittacosis. The format should emphasize use as a routine study.

ACKNOWLEDGMENTS. This work was supported in part by grants-in-aid for scientific research from the Japan Society for the Promotion of Science (20780218) and from Health Sciences Research Grant for Research on Emerging and Re-emerging Infectious Diseases from the Ministry of Health, Labour and Welfare (H19-shinkou-ippan-010, H21-shinkou-wakate-014).

REFERENCES

1. Branley, J. M., Roy, B., Dwyer, D. E. and Sorrell, T. C. 2008. Real-time PCR detection and quantitation of *Chlamydophila psittaci* in human and avian specimens from a veterinary clinic cluster. *Eur. J. Clin. Microbiol. Infect. Dis.* **27**: 269–273.
2. Caldwell, H. D. and Judd, R. C. 1982. Structural analysis of chlamydial major outer membrane proteins. *Infect. Immun.* **38**: 960–968.
3. Chahota, R., Ogawa, H., Mitsushashi, Y., Ohya, K., Yamaguchi, T. and Fukushi, H. 2006. Genetic diversity and epizootiology of *Chlamydophila psittaci* prevalent among the captive and feral avian species based on VD2 region of *ompA* gene. *Microbiol. Immunol.* **50**: 663–678.
4. Davis, C. H. and Wyrick, P. B. 1997. Differences in the association of *Chlamydia trachomatis* serovar E and serovar L2 with epithelial cells in vitro may reflect biological differences in vivo. *Infect. Immun.* **65**: 2914–2924.
5. DeGraves, F. J., Gao, D., Hehnen, H. R., Schlapp, T. and Kalt- enboeck, B. 2003. Quantitative detection of *Chlamydia psittaci* and *C. pecorum* by high-sensitivity real-time PCR reveals high prevalence of vaginal infection in cattle. *J. Clin. Microbiol.* **41**: 1726–1729.
6. Ehrlich, R., Slickers, P., Goellner, S., Hotzel, H. and Sachse, K. 2006. Optimized DNA microarray assay allows detection and genotyping of single PCR-amplifiable target copies. *Mol. Cell Probes* **20**: 60–63.
7. Everett, K. D., Hornung, L. J. and Andersen, A. A. 1999. Rapid detection of the *Chlamydiaceae* and other families in the order *Chlamydiales*: three PCR tests. *J. Clin. Microbiol.* **37**: 575–580.
8. Fukushi, H. and Hirai, K. 1989. Genetic diversity of avian and mammalian *Chlamydia psittaci* strains and relation to host origin. *J. Bacteriol.* **171**: 2850–2855.
9. Fukushi, H. and Hirai, K. 1988. Immunochemical diversity of the major outer membrane protein of avian and mammalian *Chlamydia psittaci*. *J. Clin. Microbiol.* **26**: 675–680.
10. Geens, T., Dewitte, A., Boon, N. and Vanrompay, D. 2005. Development of a *Chlamydophila psittaci* species-specific and genotype-specific real-time PCR. *Vet. Res.* **36**: 787–797.
11. Golub, O. J. and Wagner, J. C. 1948. Studies on the interference phenomenon with certain members of the psittacosis-lym- phogranuloma group of viruses. *J. Immunol.* **59**: 59–70.
12. Grayston, J. T., Kuo, C. C., Campbell, L. A. and Wang, S. P. 1989. *Chlamydia pneumoniae* sp. nov. for *Chlamydia* sp. strain TWAR. *Int. J. Syst. Bacteriol.* **39**: 88–90.
13. Harkinezhad, T., Geens, T. and Vanrompay, D. 2009. *Chlamy- dophila psittaci* infections in birds: a review with emphasis on zoonotic consequences. *Vet. Microbiol.* **135**: 68–77.
14. Heddema, E. R., Beld, M. G., de Wever, B., Langerak, A. A., Pannekoek, Y. and Duim, B. 2006. Development of an inter- nally controlled real-time PCR assay for detection of *Chlamy- dophila psittaci* in the LightCycler 2.0 system. *Clin. Microbiol. Infect.* **12**: 571–575.
15. Kaleta, E. F. and Taday, E. M. 2003. Avian host range of *Chlamydophila* spp. based on isolation, antigen detection and serology. *Avian Pathol.* **32**: 435–461.
16. Kaltenboeck, B., Kousoulas, K. G. and Storz, J. 1993. Struc- tures of and allelic diversity and relationships among the major outer membrane protein (*ompA*) genes of the four chlamydial species. *J. Bacteriol.* **175**: 487–502.
17. Laroucau, K., Vorimore, F., Aaziz, R., Berndt, A., Schubert, E. and Sachse, K. 2009. Isolation of a new chlamydial agent from infected domestic poultry coincided with cases of atypical pneumonia among slaughterhouse workers in France. *Infect. Genet. Evol.* **9**: 1240–1247.

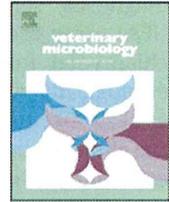
18. Magnino, S., Haag-Wackernagel, D., Geigenfeind, I., Helmecke, S., Dovc, A., Prukner-Radovic, E., Residbegovic, E., Ilijeski, V., Laroucau, K., Donati, M., Martinov, S. and Kaleta, E. F. 2009. Chlamydial infections in feral pigeons in Europe: review of data and focus on public health implications. *Vet. Microbiol.* **135**: 54–67.
19. Menard, A., Clerc, M., Subtil, A., Megraud, F., Bebear, C. and de Barbeyrac, B. 2006. Development of a real-time PCR for the detection of *Chlamydia psittaci*. *J. Med. Microbiol.* **55**: 471–473.
20. Murray, E. S. 1964. Guinea pig inclusion conjunctivitis virus. I. Isolation and identification as a Member of the psittacosis-lymphogranuloma-trachoma group. *J. Infect. Dis.* **114**: 1–12.
21. Ohya, K., Takahara, Y., Kuroda, E., Koyasu, S., Hagiwara, S., Sakamoto, M., Hisaka, M., Morizane, K., Ishiguro, S., Yamaguchi, T. and Fukushi, H. 2008. *Chlamydomphila felis* CF0218 is a novel TMH family protein with potential as a diagnostic antigen for diagnosis of *C. felis* infection. *Clin. Vaccine Immunol.* **15**: 1606–1615.
22. Pantchev, A., Sting, R., Bauerfeind, R., Tyczka, J. and Sachse, K. 2009. New real-time PCR tests for species-specific detection of *Chlamydomphila psittaci* and *Chlamydomphila abortus* from tissue samples. *Vet. J.* **181**: 145–150.
23. Pudjiatmoko, Fukushi, H., Ochiai, Y., Yamaguchi, T. and Hirai, K. 1996. Seroepidemiology of feline chlamydiosis by microimmunofluorescence assay with multiple strains as antigens. *Microbiol. Immunol.* **40**: 755–759.
24. Rodolakis, A. and Yousef Mohamad, K. 2010. Zoonotic potential of *Chlamydomphila*. *Vet. Microbiol.* **140**: 382–391.
25. Sachse, K., Vretou, E., Livingstone, M., Borel, N., Pospischil, A. and Longbottom, D. 2009. Recent developments in the laboratory diagnosis of chlamydial infections. *Vet. Microbiol.* **135**: 2–21.
26. Sareyyupoglu, B., Cantekin, Z. and Bas, B. 2007. *Chlamydomphila psittaci* DNA detection in the faeces of cage birds. *Zoonoses Public Health* **54**: 237–242.
27. Telfer, B. L., Moberley, S. A., Hort, K. P., Branley, J. M., Dwyer, D. E., Muscatello, D. J., Correll, P. K., England, J. and McAnulty, J. M. 2005. Probable psittacosis outbreak linked to wild birds. *Emerg. Infect. Dis.* **11**: 391–397.
28. Vanrompay, D., Harkinezhad, T., van de Walle, M., Beeckman, D., van Droogenbroeck, C., Verminnen, K., Leten, R., Martel, A. and Cauwerts, K. 2007. *Chlamydomphila psittaci* transmission from pet birds to humans. *Emerg. Infect. Dis.* **13**: 1108–1110.



Contents lists available at ScienceDirect

Veterinary Microbiology

journal homepage: www.elsevier.com/locate/vetmic



Short communication

Using CF0218-ELISA to distinguish *Chlamydomphila felis*-infected cats from vaccinated and uninfected domestic cats

Kenji Ohya^{a,b}, Hideko Okuda^b, Sadatoshi Maeda^c, Tsuyoshi Yamaguchi^{a,b,1},
Hideto Fukushi^{a,b,*}

^aLaboratory of Veterinary Microbiology, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University, Yanagido 1-1, Gifu 501-1193, Japan

^bDepartment of Applied Veterinary Science, United Graduate School of Veterinary Sciences, Gifu University, Gifu 501-1193, Japan

^cClinical Radiology, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University, Gifu 501-1193, Japan

ARTICLE INFO

Article history:

Received 25 February 2010

Received in revised form 14 May 2010

Accepted 19 May 2010

Keywords:

Chlamydial infection

Antigen

ELISA

Diagnosis

ABSTRACT

Chlamydomphila felis is a causative agent of acute and chronic conjunctivitis and pneumonia in cats. Cats can be vaccinated with killed or attenuated *C. felis*. However, current serodiagnostics cannot distinguish these cats from naturally infected cats. This causes difficulty of early diagnosis and seroepidemiological survey for *C. felis*. We previously reported that *C. felis* CF0218 can be used as a *C. felis*-infection-specific diagnostic antigen in experimentally infected and/or vaccinated cats. In this study, we evaluated an enzyme-linked immunosorbent assay using recombinant CF0218 as antigen (CF0218-ELISA) to detect anti-*C. felis* antibody in 714 sera of domestic cats whose histories of vaccination against *C. felis* are known. The 44 vaccinated cats were 93% negative using CF0218-ELISA; half of these scored positive by immunofluorescence assay (IFA) using *C. felis*-infected cells as antigen. The 670 non-vaccinated cats had CF0218-ELISA positivity rates that were statistically in agreement with IFA (18% vs. 21%). These results show that CF0218, which was identified as a *C. felis*-infection-specific antigen, is a useful serodiagnostic antigen to distinguish naturally *C. felis*-infected cats from vaccinated and non-infected cats.

© 2010 Elsevier B.V. All rights reserved.

1. Introduction

Chlamydia spp. and *Chlamydomphila* spp. are obligate intracellular bacterial pathogens of a wide range of hosts and cause various diseases ranging from persistent latent infection to conjunctivitis, pneumonia and miscarriage in a variety of animals, including humans (Everett et al., 1999). In terms of veterinary medicine for companion animals, *Chlamydomphila felis* causes conjunctivitis and upper

respiratory signs in cats all over the world (Sykes, 2005). The clinical signs of feline chlamydiosis (conjunctivitis and upper respiratory signs) are quite similar to those caused by feline herpesvirus type 1, and differential diagnosis is clinically difficult (Sykes, 2005). In Western countries, inactivated and live vaccines for cats are commercially available, and in Japan inactivated vaccines have been available since 2002. These vaccines are recommended because they reduce the clinical signs (Sykes, 2005; Wills et al., 1987).

Early diagnosis of *C. felis* infection is important in order to provide an appropriate treatment and prevent the spread of the disease. In general, it is difficult to diagnose chlamydial infection by isolating pathogens because it usually takes over 2 weeks for isolation (Sachse et al., 2009). Similarly, in the case of *C. felis*, it is often difficult to isolate the pathogen. Therefore, feline chlamydiosis is

* Corresponding author at: Laboratory of Veterinary Microbiology, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University, Yanagido 1-1, Gifu 501-1193, Japan. Tel.: +81 58 293 2946; fax: +81 58 293 2946.

E-mail address: hfukushi@gifu-u.ac.jp (H. Fukushi).

¹ Present address: Avian Zoonosis Research Center, Tottori University, Tottori, Japan.

diagnosed serologically by immunofluorescence assay (IFA) using the infected cells or elementary bodies (EBs; chlamydial infectious form) as antigens, or diagnosed etiologically by conventional PCR and real-time PCR (Helps et al., 2001, 2003; Sykes, 2005). IFA, is not widely used in the clinical laboratory, mainly because it requires culturing cells and live-organism to prepare antigens. PCR and real-time PCR assays are more rapid and more sensitive than other methods. However, PCR and real-time PCR assays often give false positive results due to inadequate handling of samples. Also, these tests (IFA, PCR and real-time PCR) can be conducted only in well-equipped laboratories, making it impracticable to conduct the test in clinical settings. Another problem is that with vaccines for *C. felis*, it is difficult to distinguish between *C. felis*-infected and -vaccinated cats by means of the current serological tests (IFA and ELISA) as positive reactions are observed in these tests.

In order to develop a simple serological diagnostic test for *C. felis* infection, we previously obtained a gene encoding an antigen that is specific to *C. felis* infection, termed CF0218 (also named *mhcb2*), which might be a useful antigen for diagnosing *C. felis* infection (Ohya et al., 2008). In this study, we used CF0218-ELISA (using recombinant CF0218 as antigen) to examine the prevalence of antibodies specific to *C. felis* infection in domestic cats. Our results show that CF0218-ELISA can differentiate *C. felis*-infected and -vaccinated cats, and should therefore be useful for conducting epidemiological surveys of *C. felis*.

2. Materials and methods

2.1. Serum samples

Serum samples were obtained from 714 domestic cats at veterinary clinics in 43 prefectures in Japan between 2005 and 2006. A cat was considered to have been vaccinated against *C. felis* if it had been vaccinated with Fel-O-Vax 5 (Kyoritsu Seiyaku, Tsukuba, Japan) or Feline-7 (Kyoto Biken Laboratories, Kyoto, Japan). To ensure antibody development, 44 cats were vaccinated for two or more weeks prior to collection of the sera (Ohya et al., 2008). The sera were stored at -30°C until use.

2.2. Culturing cells, *C. felis* and immunofluorescence assay

HeLa cells were used for propagation of *C. felis* Fe/C-56 as described previously (Ohya et al., 2008). HeLa cells were cultured in Eagle's minimum essential medium (MEM)-1 (Nissui, Tokyo, Japan) with 5% fetal bovine serum (FBS) at 37°C in 5% CO_2 . Antibodies against *C. felis* were detected by IFA and results were evaluated as described elsewhere with a slight modification (Tapia et al., 2002; Yan et al., 2000). HeLa cells were placed on a 12-well assay slide (Matsunami Glass, Osaka, Japan). When the cells formed a monolayer, the cells were treated with MEM containing 0.03 mg/mL DEAE-dextran for 30 min at room temperature. The cells were inoculated with *C. felis* diluted with MEM containing 1 $\mu\text{g}/\text{mL}$ cycloheximide. The negative control cells (non-infected cells) were incubated in MEM containing 1 $\mu\text{g}/\text{mL}$ cycloheximide following DEAE-dex-

tran treatment. Seventy-two hours after *C. felis* inoculation, the slides were air-dried, and fixed with chilled-acetone for 10 min. Two-fold dilutions of serum samples with phosphate-buffered saline (PBS), starting with an initial dilution of 1:8–1:512, were added onto each well, and the slides were incubated for 30 min at 37°C . The slides were washed with PBS, and fluorescein isothiocyanate (FITC)-conjugated anti-cat IgG (H&L) antibody (Bethyl Laboratories, Montgomery, TX) that had been diluted at 1:50 with PBS containing 0.02% Evans blue (for counterstain) was added as the secondary antibody. After the slides were washed and air-dried, the plates were observed with a fluorescence microscope (BX50; Olympus, Tokyo, Japan). Infection with *C. felis* in HeLa cells on the slide was checked using the FITC-conjugated anti-*Chlamydia* antibody (Denka Seiken, Tokyo, Japan) in accordance with the manufacturer's instructions. The infected cells and non-infected cells were compared for each serum sample. The samples in which chlamydial inclusions were clearly observed in the infected cells but not in the non-infected cells at a dilution of $\geq 1:16$ were assessed as *C. felis* antibody positive as described previously (Tapia et al., 2002; Yan et al., 2000).

2.3. ELISA

The amount of antibodies against CF0218 in feline sera was measured using CF0218-ELISA as described previously (Ohya et al., 2008). Briefly, purified glutathione S-transferase (GST)-conjugated CF0218 (GST-CF0218) or GST diluted at 1 $\mu\text{g}/\text{mL}$ were used as antigens. The serum samples (diluted at 1:50 with PBS) were added and incubated for 1 h at room temperature. Horseradish peroxidase (HRP)-conjugated anti-cat light chain antibody (Bethyl Laboratories) was used as the secondary antibody. Samples were developed and absorbance at 405 nm (A_{405}) was measured using a Microplate Reader Model 550 (Bio-Rad, Hercules, CA). PBS (instead of a serum sample) was used as the negative control, and sera obtained from cats experimentally infected with *C. felis* (Ohya et al., 2008) were used as the positive control. A_{405} was measured in duplicate for each serum sample, and net absorbance was calculated as described previously (Livingstone et al., 2005; Ohya et al., 2008). To determine the cutoff value between positive and negative serum in CF0218-ELISA, IFA was used as a gold standard of *C. felis* infection. The mean net A_{405} of CF0218-ELISA for IFA-negative samples was 0.003 and the standard deviation (SD) was 0.103. The cutoff value of CF0218-ELISA was calculated as the mean net A_{405} of IFA-negative samples plus $3 \times \text{SD}$ of IFA-negative samples (0.311) as described elsewhere (Livingstone et al., 2005).

2.4. Statistical analysis

The correlation of IFA titers and CF0218-ELISA absorbance was determined by a nonparametric Spearman rank correlation test. *P* values of <0.01 were considered statistically significant. The sensitivity, specificity, and positive and negative predictive values (with 95% confidence intervals) of CF0218-ELISA were calculated on the basis of IFA by the chi-square test.

3. Results

3.1. Comparison of CF0218-ELISA and IFA

We examined the prevalence of anti-CF0218 in 714 feline serum samples using CF0218-ELISA. Of 714 serum samples examined, 164 (23.0%) were positive for anti-chlamydial antibodies by IFA. One hundred and twenty of the 714 samples (16.8%) were assessed as CF0218-ELISA-positive. The efficacy of CF0218-ELISA to detect *C. felis* infection was evaluated by comparing with IFA results. Vaccines against *C. felis* have been used in Japan. As IFA testing uses *C. felis*-infected cells as an antigen, both vaccinated cats and cats infected with *C. felis* should be assessed as positive in IFA. Therefore, to evaluate whether CF0218-ELISA can detect *C. felis* infection correctly, we excluded 44 serum samples, which were collected from cats inoculated with vaccines against *C. felis*, from a total of 714 samples. Among these 670 samples, the absorbance value of CF0218-ELISA was compared with the endpoint titer of IFA (Fig. 1). The absorbance value of CF0218-ELISA correlated with the endpoint titer of IFA results ($r_s = 0.607$, $P < 0.01$). Among these samples as shown in Table 1, 143 samples (21.3%) were assessed as positive for anti-chlamydial antibodies by IFA, and of these, 112 (16.7%) were also CF0218-ELISA-positive and 31 (4.6%) were CF0218-ELISA-negative. These results show that the sensitivity and specificity of CF0218-ELISA to detect *C. felis* infection are 78.3% (95% confidence interval [CI], 74.6–80.3%) and 99.1% (95% CI, 98.0–99.6%), respectively.

3.2. CF0218-ELISA and IFA results in vaccinated cats

Results obtained by IFA and CF0218-ELISA in 44 serum samples of vaccinated cats were compared as described

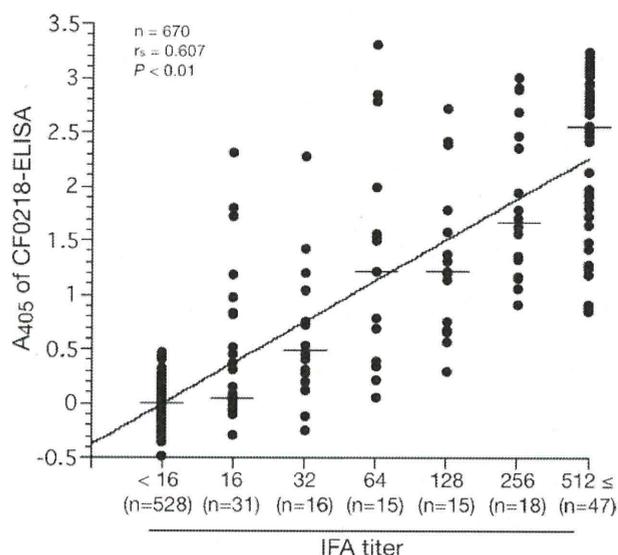


Fig. 1. Correlation of the absorbance value of CF0218-ELISA and IFA endpoint titer for 670 sera of non-vaccinated cats: the scatter plots indicate the direct comparison between the absorbance value of CF0218-ELISA and IFA endpoint titer. Spearman rank correlation coefficient (r_s) is shown (assessed as statically significant correlation; $P < 0.01$). Horizontal bars represent the median value of the absorbance of CF0218-ELISA at each IFA endpoint titer. The solid line is the regression line.

Table 1

CF0218-ELISA compared with IFA results for naturally infected and uninfected cats.

	# of serum	CF0218-ELISA ^a	
		Positive (%)	Negative (%)
IFA positive	143	112 (16.7%)	31 (4.6%)
IFA negative	527	5 (0.7%)	522 (77.9%)
Total	670	117 (17.5%)	553 (82.5%)

^a Sensitivity (95% CI), 78.3% (74.6–80.3%); specificity (95% CI), 99.1% (98.0–99.6%); positive predictive value (95% CI), 95.7% (91.2–98.1%); negative predictive value (95% CI), 94.4% (93.4–94.9%).

Table 2

CF0218-ELISA and IFA for vaccinated cats.

	# of serum	CF0218-ELISA	
		Positive (%)	Negative (%)
IFA positive	21	2 (4.5%)	19 (43.2%)
IFA negative	23	1 (2.3%)	22 (50.0%)
Total	44	3 (6.8%)	41 (93.2%)

above. As expected, among these samples, the absorbance value of CF0218-ELISA and the endpoint titer of IFA did not show a significant correlation ($r_s = 0.239$, $P = 0.119$, data not shown). In Table 2, 21 (47.7%) of the vaccinated cats were assessed as IFA-positive. On the other hand, 41 (93.2%) of the vaccinated cats were assessed as CF0218-ELISA-negative. These results suggest that CF0218-ELISA can distinguish *C. felis*-infected and -vaccinated cats in field samples.

4. Discussion

In this study, we evaluated CF0218-ELISA that we had previously established to detect antibodies for *C. felis* infection. We found that serum from 93% of the 44 cats vaccinated with inactivated *C. felis* were not detected in CF0218-ELISA. In contrast, sera from 670 non-vaccinated cats had CF0218-ELISA positivity rates that were statistically in agreement with IFA (18% vs. 21%).

Generally, the microimmunofluorescence (MIF) test (Wang and Grayston, 1970), which uses purified chlamydial EB as antigen, is employed as the 'gold standard' for the serological diagnosis and the classification of any *Chlamydia* including *C. trachomatis*, *C. pneumoniae* and *C. psittaci* (Sachse et al., 2009). However, Tapia et al. (2002) showed that IFA titers using the *C. pneumoniae*-infected Hep2 cells as antigen (inclusion IFA) represented 97% sensitivity with the *C. pneumoniae* MIF titers of ≥ 16 , and concluded that the inclusion IFA can be used as a screening assay for detection of anti-*C. pneumoniae* antibodies. Therefore, to determine the cutoff value of CF0218-ELISA, we performed IFA using *C. felis*-infected HeLa cells as a 'gold standard' in the presence of anti-*C. felis* antibodies. Among the 670 non-vaccinated cats, the correlation between the absorbance value of CF0218-ELISA and the endpoint titers of IFA exhibited statistical significance. These results suggest that CF0218-ELISA is an alternative way to detect anti-*C. felis* antibodies, although its sensitivity was slightly inferior

than that of IFA. This is probably because IFA uses *C. felis*-infected cells as antigen, and therefore it detects various types of antibodies that are induced at the time of *C. felis* infection. On the other hand, because CF0218-ELISA detects antibodies against a single antigen, the quantity of anti-CF0218 antibodies may not have increased enough or may have already decreased, depending on the timing of *C. felis* infection in each cat. In fact, our previous study showed that anti-CF0218 antibodies increased 2 weeks following infection (Ohya et al., 2008).

Among the vaccinated cats, the correlation between the absorbance value of CF0218-ELISA and the endpoint titer of IFA was not statistically significant. Results obtained in this study indicate that CF0218-ELISA is a useful method for the detection of antibodies specific to *C. felis* infection in field samples.

The overall prevalence rate of *C. felis* infection by CF0218-ELISA and IFA in the non-vaccinated cats was 16.7%, which was almost the same as the results obtained by the MIF test (17.3%) in domestic cats in Japan before the vaccines became practically available (Yan et al., 2000). The results of this study strongly indicate the usefulness of CF0218-ELISA for the epidemiological survey of *C. felis*, and that a significant percentage of domestic cats throughout Japan have histories of *C. felis* infection.

In the case of ovine enzootic abortion (OEA) caused by *C. abortus*, another chlamydiosis commercial vaccine is available (Longbottom and Livingstone, 2006). A method is thus needed to differentiate between vaccinated and infected animals (Gerber et al., 2007; Sachse et al., 2009). CF0218 is a TMH (transmembrane head)-family protein located on the TMH locus in the *C. felis* genome (Ohya et al., 2008). The *C. pneumoniae* and *C. trachomatis* genome do not have a TMH locus (and the TMH-family proteins). However, the *C. abortus* genome encodes several TMH-family proteins (e.g., CAB764 and CAB766) (Thomson et al., 2005). The TMH-family proteins of *C. abortus* may have the potential to be diagnostic antigens that can distinguish vaccinated and infected animals. A major problem with detecting antibodies in animal and human chlamydial infections is cross-reactivity of antigens such as LPS among strains and *Chlamydiaceae* (Brade et al., 1987; Sachse et al., 2009). We previously showed that the similarity of TMH-family proteins among *Chlamydiaceae* (*C. felis*, *C. abortus* and *C. caviae*) was low at the amino acid level (around 25–35%), that recombinant CF0218 was not recognized by antisera of *C. trachomatis* and *C. abortus*, and that there was no diversity of CF0218 among *C. felis* strains (Ohya et al., 2008). In addition, *C. psittaci*, the agent for psittacosis, also possesses the TMH-family proteins (K. Ohya and H. Fukushi, personal communication). These results raise the possibility that the TMH-family protein can be used as novel diagnostic antigens of animal chlamydiosis, which is species-specific and can differentiate infected and vaccinated animals, in spite of other conventional antigens such as whole EB and LPS.

Although live and inactivated vaccines for *C. felis* are available (Sykes, 2005), only the inactivated-form is approved in Japan. Therefore, in this study, we examined the cats that were inoculated formalin-inactivated form, but not with the live-form. Inactivated *C. felis* vaccine

accounts for about 50% of total sales of *C. felis* vaccine in the United States (Ohya et al., 2008). Further CF0218-ELISA studies are needed to examine cats inoculated with live *C. felis* vaccine.

Conflict of interest

None declared.

Acknowledgments

We are grateful to veterinarians in private animal hospitals in Japan who supplied serum samples used in this study. We also would thank Y. Cai and M. Itoh for technical advice and help. This work was supported in part by grants-in-aid for the Zoonosis Control Project from the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan (to H.F.); for scientific research from the Japan Society for the Promotion of Science (to K.O.); from Health Sciences Research Grant for Research on Emerging and Re-emerging Infectious Diseases from the Ministry of Health, Labor, and Welfare (to K.O.); and from Fort Dodge Animal Health (Overland Park, KS) (to H.F.).

References

- Brade, H., Brade, L., Nano, F.E., 1987. Chemical and serological investigations on the genus-specific lipopolysaccharide epitope of *Chlamydia*. Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A. 84, 2508–2512.
- Everett, K.D., Bush, R.M., Andersen, A.A., 1999. Emended description of the order *Chlamydiales*, proposal of *Parachlamydiaceae* fam. nov. and *Simkaniaceae* fam. nov., each containing one monotypic genus, revised taxonomy of the family *Chlamydiaceae*, including a new genus and five new species, and standards for the identification of organisms. Int. J. Syst. Bacteriol. 49, 415–440.
- Gerber, A., Thoma, R., Vretou, E., Psarrou, E., Kaiser, C., Doherr, M.G., Zimmermann, D.R., Polkinghorne, A., Pospischil, A., Borel, N., 2007. Ovine enzootic abortion (OEA): a comparison of antibody responses in vaccinated and naturally-infected swiss sheep over a two year period. BMC Vet. Res. 3, 24.
- Helps, C., Reeves, N., Egan, K., Howard, P., Harbour, D., 2003. Detection of *Chlamydomydia felis* and feline herpesvirus by multiplex real-time PCR analysis. J. Clin. Microbiol. 41, 2734–2736.
- Helps, C., Reeves, N., Tasker, S., Harbour, D., 2001. Use of real-time quantitative PCR to detect *Chlamydomydia felis* infection. J. Clin. Microbiol. 39, 2675–2676.
- Livingstone, M., Entrican, G., Wattedegera, S., Buxton, D., McKendrick, I.J., Longbottom, D., 2005. Antibody responses to recombinant protein fragments of the major outer membrane protein and polymorphic outer membrane protein POMP90 in *Chlamydomydia abortus*-infected pregnant sheep. Clin. Diagn. Lab. Immunol. 12, 770–777.
- Longbottom, D., Livingstone, M., 2006. Vaccination against chlamydial infections of man and animals. Vet. J. 171, 263–275.
- Ohya, K., Takahara, Y., Kuroda, E., Koyasu, S., Hagiwara, S., Sakamoto, M., Hisaka, M., Morizane, K., Ishiguro, S., Yamaguchi, T., Fukushi, H., 2008. *Chlamydomydia felis* CF0218 is a novel TMH family protein with potential as a diagnostic antigen for diagnosis of *C. felis* infection. Clin. Vaccine Immunol. 15, 1606–1615.
- Sachse, K., Vretou, E., Livingstone, M., Borel, N., Pospischil, A., Longbottom, D., 2009. Recent developments in the laboratory diagnosis of chlamydial infections. Vet. Microbiol. 135, 2–21.
- Sykes, J.E., 2005. Feline chlamydiosis. Clin. Technol. Small Anim. Pract. 20, 129–134.
- Tapia, O., Slepentin, A., Sevrioukov, E., Hamor, K., de la Maza, L.M., Peterson, E.M., 2002. Inclusion fluorescent-antibody test as a screening assay for detection of antibodies to *Chlamydia pneumoniae*. Clin. Diagn. Lab. Immunol. 9, 562–567.
- Thomson, N.R., Yeats, C., Bell, K., Holden, M.T., Bentley, S.D., Livingstone, M., Cerdano-Tarraga, A.M., Harris, B., Doggett, J., Ormond, D., Mungall, K., Clarke, K., Feltwell, T., Hance, Z., Sanders, M., Quail, M.A., Price, C., Barrell, B.G., Parkhill, J., Longbottom, D., 2005. The *Chla-*

- mydophila abortus* genome sequence reveals an array of variable proteins that contribute to interspecies variation. *Genome Res.* 15, 629–640.
- Wang, S.P., Grayston, J.T., 1970. Immunologic relationship between genital TRIC, lymphogranuloma venereum, and related organisms in a new microtiter indirect immunofluorescence test. *Am. J. Ophthalmol.* 70, 367–374.
- Wills, J.M., Gruffydd-Jones, T.J., Richmond, S.J., Gaskell, R.M., Bourne, F.J., 1987. Effect of vaccination on feline *Chlamydia psittaci* infection. *Infect. Immun.* 55, 2653–2657.
- Yan, C., Fukushi, H., Matsudate, H., Ishihara, K., Yasuda, K., Kitagawa, H., Yamaguchi, T., Hirai, K., 2000. Seroepidemiological investigation of feline chlamydiosis in cats and humans in Japan. *Microbiol. Immunol.* 44, 155–160.

A Review of DNA Viral Infections in Psittacine Birds

Hiroshi KATOH¹⁾, Hirohito OGAWA^{1)**}, Kenji OHYA¹⁾ and Hideto FUKUSHI^{1)*}

¹⁾Department of Applied Veterinary Sciences, United Graduate School of Veterinary Sciences, Gifu University, Gifu 501-1193, Japan

(Received 12 January 2010/Accepted 2 April 2010/Published online in J-STAGE 16 April 2010)

ABSTRACT. To date, several DNA viral infections have been reported in psittacine birds. Psittacine beak and feather disease (PBFD) is characterized by symmetric feather dystrophy and loss and development of beak deformities. PBFD is caused by beak and feather virus, which belongs to the *Circoviridae*, and is the most important infection in psittacine birds worldwide. Avian polyomavirus infection causes acute death, abdominal distention, and feather abnormalities. Pacheco's disease (PD), which is caused by psittacid herpesvirus type 1, is an acute lethal disease without a prodrome. Psittacine adenovirus infections are described as having a clinical progression similar to PD. The clinical changes in psittacine poxvirus-infected birds include serious ocular discharge, rhinitis, and conjunctivitis, followed by the appearance of ulcerations on the medial canthi of the eyes. Internal papillomatosis of parrots (IPP) is a tumor disease characterized by progressive development of papillomas in the oral and cloacal mucosa. IPP has been suggested to be caused by papillomavirus or herpesvirus. However, information about these diseases is limited. Here we review the etiology, clinical features, pathology, epidemiology, and diagnosis of these DNA viruses.

KEY WORDS: DNA virus, psittacine bird, review.

J. Vet. Med. Sci. 72(9): 1099–1106, 2010

In recent years, various psittacine birds have been popular and kept as pet animals in Japan as well as other countries. Avian medicine for poultry has made significant progress over the last several decades. However, there are few studies with regard to avian medicine for psittacine birds. Today, infectious diseases, especially viral infectious diseases, are the most common clinical problems in captive psittacine birds because of their association with acute death and difficulties in treatment and control. Many viral infections in psittacine birds have been reported, including DNA virus: psittacine beak and feather disease (PBFD) [73], avian polyomavirus infection (APV) [5], psittacid herpesvirus infection (PsHV) [92], psittacine adenovirus infection (PsAdV) [81], poxvirus infection [58], and papillomavirus infection [14] and RNA virus: reovirus infection [106], coronavirus infection [26], paramyxovirus infection [29], influenza virus infection [76], and bornavirus infection [50]. However, information about these diseases is limited.

The objectives of this review are DNA viral infections in psittacine birds with respect to (I) etiology, (II) clinical features, (III) pathology, (IV) epidemiology, and (V) diagnosis about each DNA virus disease in psittacine birds. Table 1 is summary of each viral infection in this review.

DNA VIRUS INFECTIONS IN PSITTACINE BIRDS

Psittacine beak and feather disease (Circovirus infection): This chronic disease is characterized by symmetric feather dystrophy and loss, development of beak deformi-

ties, and eventual death. It was first observed in various species of Australian cockatoos in the early 1970s [73]. Because of the characteristic feather loss and abnormal beak associated with this disease, the disease was named Psittacine beak and feather disease (PBFD).

PBFD is found in many countries, including Australia [48], Germany [78], Italy [6], New Zealand [86], South Africa [31], Taiwan [18, 36], Thailand [49], and the U.S.A. [18]. Reported viral DNA positive rates in recent years are 23.0% in Australia [48], 40.4% in Germany [78], 8.0% in Italy [6], 41.2% in Taiwan [36], and 3.5 to 4.0% in the U.S.A. [18]. In Japan, PBFD has been reported in many psittacine species [70], with an overall positive rate of 18.5% [89]. At present, PBFD is the most important viral infection in psittacine birds in Japan as well as other countries.

Beak and feather disease virus (BFDV), the causative agent of PBFD, belongs to the family *Circoviridae*. The BFDV virion is icosahedral and nonenveloped with a diameter of 14–17 nm [84]. It carries a single-stranded ambisense circular DNA with a complete genome size of approximately 2 kb [84]. BFDV genome DNA has two major open reading frames (ORFs), which encode a replication associated protein (ORF V1 or Rep) and a capsid protein (ORF C1 or CP) [2, 3, 65]. A third ORF (ORF V2) has been suggested, although its function is unknown.

PBFD has been confirmed in over 60 species of both free-ranging and captive psittacine birds [48, 101]. This disease has peracute, acute, and chronic forms. Sudden death occurs in peracute and acute forms. The chronic form is characterized by progressive symmetric feather dystrophy and loss and by beak deformities [73]. Feather dystrophy is due to necrosis and hyperplasia of epidermal cells [6, 104]. Beak deformities are not always present and seem to occur in specific species or are dependent on other factors [84].

*CORRESPONDENCE TO: FUKUSHI, H., Laboratory of Veterinary Microbiology, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University, Yanagido 1-1, Gifu 501-1193, Japan.
e-mail: hfukushi@gifu-u.ac.jp

**PRESENT ADDRESS: OGAWA, H., Nippon Institute for Biological Science, 9-2221-1 Shinmachi, Ome, Tokyo 198-0024, Japan.

Table 1. Summary of DNA virus infections in psittacine birds

Virus	Genome	Disease	Clinical features	Diagnosis	Reports in Japan
Beak and feather disease virus (<i>Circoviridae</i>)	ssDNA, circular 2 kbp	Psittacine beak and feather disease	Feather dystrophy, Beak deformity Immunosuppression	HA, HI, EM, PCR	+
Avian polyomavirus (<i>Polyomaviridae</i>)	dsDNA, circular 5 kbp	Avian polyomavirus infection	Acute death, Subcutaneous hemorrhage Feather abnormality	IFA, EM, NT, PCR	+
Psittacid herpesvirus type 1 (<i>Herpesviridae</i>)	dsDNA, linear 160 kbp	Pacheco's disease	Acute death, Depression, Anorexia Diarrhea, Tremor, Instability	EM, PCR	+
Psittacine adenovirus (<i>Adenoviridae</i>)	dsDNA, linear 45 kbp ^{a)}	Psittacine adenovirus infection	Depression, Anorexia Diarrhea, Cloacal hemorrhage	EM, PCR	+
Psittacine poxvirus (<i>Poxviridae</i>)	dsDNA, linear 300 kbp ^{b)}	Psittacine poxvirus infection	Ocular discharge, Rhinitis Conjunctivitis	ELISA, HI, NT, PCR	-
Psittacine papillomavirus (<i>Papillomaviridae</i>)	dsDNA, circular 7.8 kbp	Internal papillomatosis of parrot	Papillomas of oral and cloacal mucosa	PCR	-

HA: Hemagglutination test. HI: Hemagglutination inhibition test. EM: Electron microscopy. NT: Virus-neutralization test.

Plus indicates that this disease has been reported in Japan. Minus indicates that this disease has not been reported in Japan.

a) This is the genome size of fowl adenovirus, b) This is the genome size of fowl poxvirus.

Histopathological examinations have revealed basophilic intranuclear and intracytoplasmic inclusion bodies within infected feather epithelial cells or macrophages (Fig. 1A) [37, 73]. This disease does not always cause death. BFDV-induced immunosuppression causes secondary infections, which are the cause of death in most infected birds [84].

In the case of progressive feather loss, Pbfd should be suspected. However, visible feather changes grossly similar to those caused by BFDV can be induced by any number of factors, including APV, PsAdV, trauma, bacterial folliculitis, malnutrition, endocrine abnormalities, and drug reactions to penicillins and cephalosporins. Specific assays for BFDV infection have been developed. These include *in situ* hybridization [79], hemagglutination and hemagglutination inhibition [83], electron microscopy [84], PCR [70, 109], and real-time PCR [45, 82]. Among them, PCR is a very sensitive, specific, and rapid tool for detection of viruses.

Avian polyomavirus infection: APV infection causes acute death, abdominal distention, and feather abnormalities known as "French molt" in fledgling and young budgerigars [34]. It also causes a loss of down feathers on the back and abdomen, filoplumes on the head and neck, and subcutaneous hemorrhage of nesting budgerigars [5, 16]. APV infections have also been detected in other psittacine bird species and in other avian orders. In these cases, APV causes clinical signs similar to those observed in budgerigars. However, the degree of susceptibility for and severity of the diseases seems to be dependent on the species infected [19]. Pathologic examinations have found hydropericardium, enlarged heart, swollen liver, congested kidneys, and hemorrhage within the body cavities [5, 16]. Histopathological findings have revealed large and slightly basophilic nuclear inclusion bodies in various tissues, especially in the spleen, liver, and kidneys (Fig. 1B) [5, 16].

This disease has been observed in Canada [5], China [51], Australia [71], Germany [95], Slovakia [55], Italy [6], and

Taiwan [36]. In Italy and Taiwan, the viral DNA positive rates were 0.8% and 15.2%, respectively. In Japan, APV infections have been reported in several bird species, such as budgerigar, black-headed caique (*Pionites melanocephala*) and eclectus parrot (*Eclectus roratus*) [34, 47], with an overall DNA positive rate of 2.7% [69].

Polyomaviruses are widely distributed among mammalian and avian species. To date, four polyomaviruses in birds are known, namely avian polyomavirus (APV), goose hemorrhagic polyomavirus (GHPV), finch polyomavirus (FPyV) and crow polyomavirus (CPyV) [9, 30, 43]. In the early 1980s, the first bird polyomavirus, which was isolated from budgerigars (*Melopsittacus undulatus*) [16], was then designated as budgerigar fledgling disease polyomavirus by the International Committee on Taxonomy of Viruses (ICTV) [5, 9]. However, it is now termed APV because of its broad host range [40]. The other three bird polyomaviruses have not been reported in psittacine birds.

The APV virion is icosahedral and nonenveloped with a diameter 45–50 nm [9]. The APV genome is a circular double-stranded DNA, 4,981 bp in size, and forms a chromosome-like structure with cellular histones [88]. Functionally, the APV genome can be divided into early and late gene-coding regions. The early region encodes both a large tumor antigen and a small tumor antigen by analogy with mammalian polyomaviruses. The late region in APV encodes a major structural protein, VP1, and three minor structural proteins, VP2, VP3, and VP4 [41]. The outer shell of the virion is composed of VP1. The three minor proteins are also present in the viral capsid [41]. A single amino acid at position 221 in VP2 has been reported to be a key element for propagating in cell cultures derived from several avian species [47, 94]. VP4 is a structural protein specific to polyomaviruses isolated from avian species and has multiple functions such as interaction with VP1 and double-stranded DNA and induction of apoptosis [42].

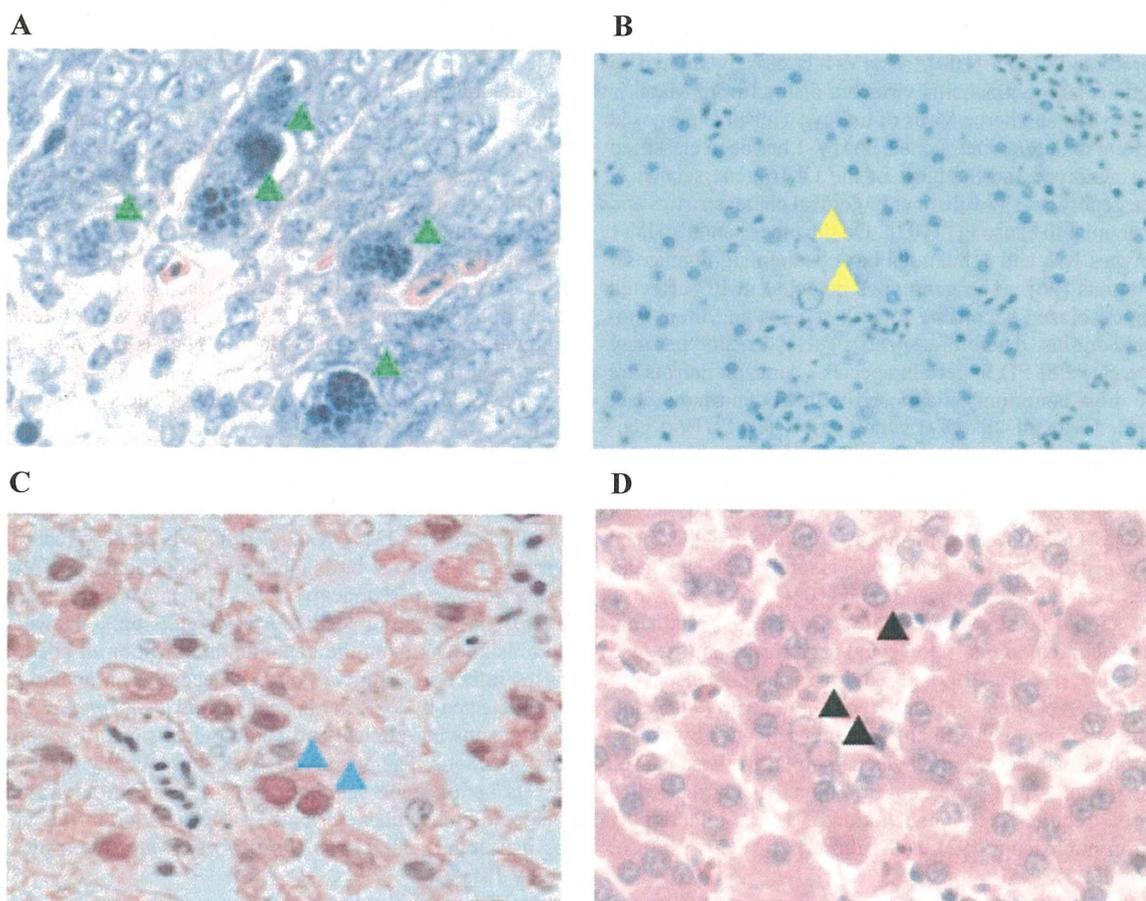


Fig. 1. (A) Basophilic intracytoplasmic inclusion bodies are located within BFDV-infected feather epithelial cells (green arrowheads). Inclusion bodies are shown as characteristic various sizes of multiple globules. (B) Basophilic intranuclear inclusion bodies are located within the APV-infected epithelial cells of the renal tubules (yellow arrowheads). Opaque inclusion bodies are observed with enlarged nuclei. (C) Eosinophilic intranuclear inclusion bodies are located within the hepatocytes of PD-affected birds (blue arrowheads). (D) Basophilic intranuclear inclusion bodies are located in the hepatocytes of PsAdV-affected birds (black arrowheads).

Clinical changes that are suggestive of APV infections include acute death or development of feather abnormalities. However, these changes can also be associated with other infectious and non-infectious diseases. Recently, APV has been identified by immunofluorescent antibody staining [28], *in situ* hybridization [79], electron microscopy [34], virus-neutralization test [74], PCR [70, 75], and real-time PCR [45].

Psittacid herpesvirus infection: In 1929, Brazilian veterinarian Pacheco encountered an outbreak of acute, fatal hepatitis with intranuclear inclusion bodies in psittacine birds in Brazil. This syndrome became known as Pacheco's disease (PD). In 1975, an avian herpesvirus, later named psittacid herpesvirus type 1 (PsHV-1), was confirmed to cause PD [92]. The usual clinical history for a bird of normal appearance is to be found dead in its enclosure without a prodrome. If still alive, clinical signs may include depression, anorexia, diarrhea, tremors, and instability [91, 92]. Because the virus

kills the birds very rapidly, affected birds may show no gross lesion but may show abnormal changes in the liver, spleen, kidneys, and intestines. Histopathological findings associated with PD include necrotizing lesions in many organs, as well as hemorrhage and congestion of the liver, spleen, and kidneys. Intranuclear inclusion bodies (Cowdry type A) are most commonly found in the liver, but have also been demonstrated in the kidneys, spleen, pancreas, and small intestines (Fig. 1C) [105]. PD has been observed in the U.S.A. [60, 92], UK [25], Spain [22], Kenya [44], South Africa [35], and Japan [105].

PsHV-1 has also been suggested to have an etiological role in the development of tumors, as specific PsHV-1 genome sequences have been repeatedly detected in mucosal papillomas from parrots [39, 64, 96]. Recently, another type of psittacid herpesvirus, PsHV-2, has been identified in three African grey parrots. However, the prevalence and pathogenicity of PsHV-2 is, as yet, unclear [97,